

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
【発行日】令和 5 年 11 月 14 日(2023.11.14)

【公開番号】特開 2022-70010(P2022-70010A)  
【公開日】令和 4 年 5 月 12 日(2022.5.12)  
【年通号数】公開公報(特許)2022-083  
【出願番号】特願 2020-179010(P2020-179010)  
【国際特許分類】

G 0 1 L 5/00(2006.01)

10

B 2 3 B 31/00(2006.01)

【F I】

G 0 1 L 5/00 Z

B 2 3 B 31/00 D

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 11 月 6 日(2023.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

チャックに把持されて該チャックの保持力を測定する保持力センサであって、  
ベース部と、

前記ベース部の一方側に配置された複数の起歪体であって、各々が前記ベース部により  
片持ち支持されて自由端を有する起歪体と、

前記複数の起歪体の少なくとも一つに取り付けられたひずみゲージとを備え、

前記保持力の測定のために、前記複数の起歪体の前記ひずみゲージよりも前記自由端側  
が前記チャックにより一体として把持される保持力センサであり、

30

前記複数の起歪体の各々は、前記ひずみゲージよりも前記自由端側に、前記保持力セン  
サを把持するために前記チャックが当接される被当接部を有し、

前記保持力センサは前記チャックに把持された状態において前記チャックの中心軸に一  
致するセンサ中心軸を有し、

前記被当接部が、前記センサ中心軸を中心とする仮想円上に位置し、

前記複数の起歪体の各々が、前記チャックが前記保持力センサを把持するときに前記チ  
ャックの先端に当接する位置合わせ面を有し、該位置合わせ面が前記被当接部よりも前記  
ひずみゲージ側において前記センサ中心軸に直交する面内に延びている保持力センサ。

40